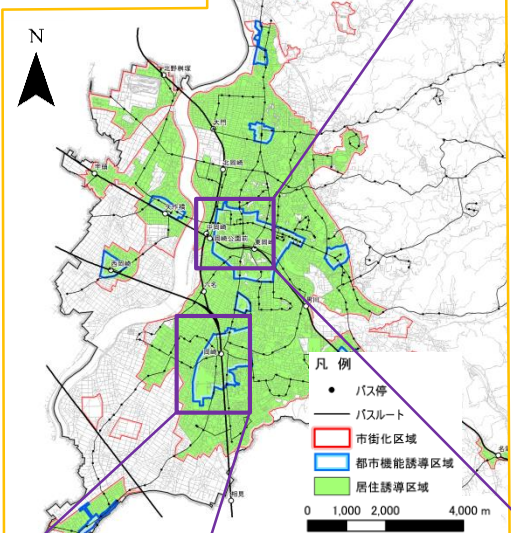
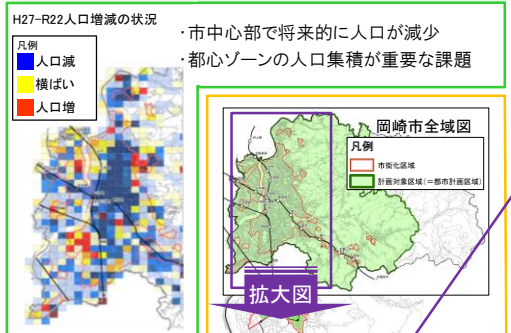


- いずれ訪れる将来の人口減少を見据えた取組
- 将来都心ゾーンでより顕著な人口減少の推計など、全国でも特有の課題を有する

# 公共空間を活用した公民連携

## (かわまちづくり・スポンジ化対策等) により各種課題に対応

### 都心の魅力向上による居住の集約が課題



### 東岡崎駅周辺の都市機能誘導区域における主な取組及びその効果

#### 乙川リバーフロント地区QRUWA(※)戦略

※QRUWAとは？…RF地区約157haの多様な魅力を味わうことができる、公共空間の各拠点を結ぶ約3kmのまちの主要回遊動線。かつての岡崎城跡の「総曲輪(そうくるわ)」の一部と重なること、また、動線が「Q」の字に見えることから、「QRUWA」と命名。

乙川リバーフロント地区(RF地区)内の豊富な公共空間を活用して、パブリックマインドを持つ民間を引き込む公民連携プロジェクトを実施することにより、その回遊を実現させ、波及効果として、まちの活性化(暮らしの質の向上・エリアの価値向上)を図る戦略。現在、下図①~⑦の7つのプロジェクトの具現化に取り組んでいる。

- ①PPP活用拠点形成事業(太陽の城跡地)**  
約8,000㎡の市有地で事業用定期借地等によりシティーホテル、コンベンション、リバーベースを一体的に整備するまちの拠点形成プロジェクト
- ②PPP活用公園運営事業(桜城橋橋上広場・橋詰広場)**  
公園人道の桜城橋橋上広場とその橋詰広場約2,800㎡の公園用地を活用し、Park-PFIによる民間活力を導入し、休憩所、飲食店などを整備、運営するプロジェクト
- ③PPP活用拠点形成事業(東岡崎駅北東街区)**  
名鉄東岡崎駅に隣接する約6,600㎡の事業用定期借地権を設定した市有地で、商業等の都市機能を持つ民間事業者を核に、河川空間を含め一体的に活用するプロジェクト
- ④乙川かわまちづくり事業**  
特例により実現した、河川空間での観光船運航や殿橋テラスでのカフェなど様々な民間事業が連携するプロジェクト
- ⑤PPP活用公園運営事業(籠田公園・中央緑道)**  
ステージ等を有する約7,000㎡の籠田公園、道路再構築により拡幅する約6,000㎡の中央緑道での、地元団体や公園管理・活用に関係する民間事業者などと共に公園で稼ぎ、公園に還元する組織・仕組みづくりに挑むプロジェクト
- ⑥PPP活用拠点形成事業(暫定駐車場)**  
図書館交流プラザ「りぶら」東側に有する約11,000㎡の駐車場や広場などの公的不動産を活かした公民連携事業により、まちと「りぶら」を繋ぐプロジェクト
- ⑦道路再構築事業**  
康生通り約300m区間等で、都市再生推進法人を組織化し、オープンカフェ、広告板設置などの道路空間を活用する民間の取組みの事業化と、それに併せた道路空間再構築(車線数削減、歩道拡張、路駐帯設置等)を含めたプロジェクト

### スポンジ化対策の推進 (コモンズ協定を記載)

岡崎市立地適正化計画において、東岡崎駅周辺の都市機能誘導区域を対象とした「立地誘導促進施設協定に関する事項」を記載(駐車場の配置の適正化等を検討)

#### バス基幹軸の整備

・まちなかや郊外を結ぶ既存バス路線のうち、優先的に確保すべき路線を基幹路線と位置づけ、バスロケーションシステム(※)やバス停上屋・ベンチの整備等による利便性向上を図り、路線の確保維持に努める

#### 「まちバス」による回遊性・利便性の向上

・乙川RF地区周辺でコミュニティバス「まちバス」を運行し、エリア内の回遊性・利便性を向上  
※バス停に設置した案内表示器やQRコードにより、運行状況等を可視化

#### リノベーションまちづくり

・市、商工会議所、日本政策金融公庫、宅建協会、Oka-Biz(産業支援センター)によりリノベーションまちづくり実行委員会を組織し、まちづくり会社、NPO法人と協力しながらリノベーションまちづくりを推進  
・民間主導で既存物件をリノベーション  
→ 実案件化としてwagamama house 開業  
(主婦が経営する総業店・主婦の職場づくりのためのスペース提供)



民間による道路空間活用社会実験	QRUWA(くるわ)回遊促進事業
東岡崎駅周辺の都市機能誘導区域における低未利用地面積割合	
8.8%(H25)	⇒ 8.0%(R22) 以下に
観光入込客数(イベント)	
196万人(H26)	⇒ 208万人(R2)
観光入込客数(観光施設)	
387万人(H26)	⇒ 411万人(R2)

### 岡崎駅周辺の都市機能誘導区域における取組等

- ・駅西側・駅南側・駅東側で近年土地区画整理事業を実施
- ・(駅南)緊急医療を担う民間の大学病院(藤田医科大学岡崎医療センター)を誘致(R2開院予定)  
→ 民間資本を活用し、市財政負担を抑えながら医療機能を確保
- ・二次医療圏である西三河南部東医療圏(岡崎市、幸田町)域内等全体として、  
・広域的に居住を誘導・維持

### 期待される効果

居住誘導区域内の人口密度	93.5人/ha(H27) ⇒ 95.0人/ha(R22)	公共交通利用者数の増加(岡崎市地域公共交通網形成計画より)	2,993万人/年(H24) ⇒ 3,000万人/年(R2)以上に
経済効果(観光消費額)(岡崎市観光基本計画アクションプランより)	381億円(H26) ⇒ 404億円(R2)	QRUWA上の路線価の向上	108.7千円/㎡(H29) ⇒ 109.4千円/㎡(R2)